

felissimo fund report

2012年度
フェリシモ 基金活動報告書

{ 2012.3 - 2013.2 }

2012年度 フェリシモ基金活動のご報告

フェリシモ基金活動は、お客さまおひとりおひとりの善意を基金というかたちでお預りし運営しています。

たくさんのご参加、本当にありがとうございました。

感謝の気持ちとともに、ここに2012年度の全基金活動をご報告させていただきます。

はじめはひとりでも、小さなことも集まれば大きな夢の力になります。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

2012年度基金総額

2012年3月～2013年2月

みなさまからお寄せいただいた基金の収支をご報告します。

期首残高 ￥ 165,600,769

収入 ￥ 173,306,714

支出 ￥ 161,127,150

期末残高 ￥ 177,780,333 (2013年2月末現在)

東日本大震災の発生直後に開設した「緊急義援金」の窓口寄せられた義援金(基金)で、被災地への緊急支援に活用されました。(緊急義援金の受付は終了しました。)

2012年度は、お客さまから2,000円をお預かりし、以下の事業に総額2,295,330円を拠出しました。

被災地域の学童保育施設への支援

放課後、家庭で過ごすように小学生の子どもたちを一時預かる学童保育。震災時、家族や先生に代わって、子どもたちを避難所で数日間見守った指導員の方も多くいらしたそうです。しかし、学校などに比べると支援の手が届きにくいのが現状で、震災直後から、学童保育の現場を応援してほしいという声寄せられ、2012年3月に福島県南相馬市、相馬市、いわき市より被災地域の学童保育施設への支援がスタートしました。福島県、宮城県、岩手県の以下の地域の210ヶ所の学童保育施設の子どもたちにストライクアウト(ボール投げ玩具)や工作セット、好きな本を自由に選べる図書券、毎日のおやつになる果物などを寄贈することができました。学童保育施設の方々から寄せられた寄贈品リクエストの中には、被災状況などから屋内で使用できる玩具を希望された学童施設もあったため、各施設が必要なものを提供できるよう、工作道具やお絵かき道具、一輪車や室内でもからだを動かして楽しめる玩具などを選んでいただく形で支援を行いました。(学童保育施設への支援は2012年8月に終了しました。)

【支援地域】

福島県
南相馬市 相馬市 いわき市 福島市
二本松市 郡山市 田村市 本宮市
田村郡三春町 双葉郡富岡町 相馬郡新地町 相馬郡飯館村

宮城県

仙台市 石巻市 塩竈市 気仙沼市 多賀城市 東松島市
亶理郡亶理町 亶理郡山元町 宮城郡松島町
宮城郡七ヶ浜町 牡鹿郡女川町

岩手県

宮古市 大船渡市 陸前高田市 釜石市

寄贈品をお贈りした学童保育施設の子どもたちから、たくさんの感謝状が届きましたので、その一部をここにご紹介させていただきます。

この度は、一輪車の寄贈、ありがとうございました。子供たちは、毎日一輪車にチャレンジしています。一輪車の順番待ちをする子たちまでできました。/まゆみ放課後児童クラブ



©まゆみ放課後児童クラブ

※被災地域の学童保育施設への支援には、東日本大震災毎月100円義援金(基金)からも支援をしています。

「羊毛フェルト手芸講習会&のれんづくり」への支援

岩手県宮古市の仮設住宅で生活する方々と近隣の被災された方々を対象にした「羊毛フェルト手芸講習会&のれんづくり」のワークショップで使用する資材の提供を支援しました。(助成団体：仮設住宅支援団体 EARTH MIYAKO)

東日本大震災 毎月100円義援金 (基金)

TOTAL

東日本大震災毎月100円義援金(基金)スタート以来、集まった基金は累計で1.1億円を超え、被災地の復興を支援しています。

東日本大震災 もっとずっとずっと 基金

毎月一口100円の寄付による参加をいただき、集まった基金で、東日本大震災で被災された方々の心と暮らしの立て直し、地域の復興などを長期的に支援します。

2012年度は、お客さまから62,896,585円をお預かりし、以下の事業ならびに「とうほくIPPOプロジェクト」に総額40,197,296円を拠出しました。

福島県飯館村において、農作業にとって命といえる土壌を削り取ることなく、竹と微生物の力を活かして土壌を浄化する取り組みを支援しました。(助成団体：うつくしま ふくしま 復幸プロジェクト)

東北の10ヶ所の学童保育の小学生約320名にお絵かきワークショップを通じた心のケア活動を支援しました。日本臨床美術協会が特別にプログラムを製作、臨床美術士の資格を持つボランティア先生の指導のもと、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのコーディネートによりワークショップが実現しました。



©セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



©セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



©セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

東日本大震災により被災された地域、

人々の復興支援のために商品の一部を基金付きで販売しています。

お預かりした基金は、東日本大震災の復興支援、子ども支援に活用されます。

2012年度は、お客さまから4,797,789円をお預かりし、次の事業ならびに「とうほくIPPOプロジェクト」に総額848,000円を拠出しました。

東日本大震災発生以後、被災した子どもたちへの心のケア活動や津波遺児の心のケアのための施設「東北レインボーハウス」の建設を支援しました。(助成団体：あしなが育英会)



©あしなが育英会



©あしなが育英会



©あしなが育英会

「東日本大震災毎月100円義援金(基金)」ならびに「東日本大震災もっとずっとずっと基金」は「とうほくIPPOプロジェクト」に活用されています。

女性の元気が東北を元気に「とうほくIPPOプロジェクト」

東日本大震災に対する息の長い復興支援の必要性から、女性による東北の産業復興を支援する「とうほくIPPOプロジェクト」を2012年6月に発足しました。このプロジェクトは、責任者、主体者メンバーが女性であることを条件に事業提案を公募し、審査の結果選ばれた個人・団体に支援金を支給し、被災地の産業復興のきっかけづくりにつなげていく取り組みです。第1期として、次の14のプロジェクトへの支援を行いました。

布ぞうりで生きがいづくり

布ぞうりの講習会を通して生きがい作りのお手伝いをします。希望に応じてスキルアップ講習を行い、販売用の作品が作れるようにアドバイスしています。(支援先：あゆみ)

カフェでコミュニケーションづくり

「さんさカフェ」のお食事券で日替わり定食+ドリンク+アイスクリームのセットを食べいただき、ひとときの楽しいコミュニケーションの場を提供します。(支援先：さんさカフェ)

手づくり品の製作指導・販売

「うみねこハウス」を拠点に、手づくり品の製作指導や販売で被災者を支援しています。また、積極的に県外ボランティアを受け入れ、交流の場を提供しています。(支援先：マサポーターズ)

手づくりマスクなどの製作&販売

ふくしま女子発信のピーチハートブランド。手作りマスクなど製作&販売しています。女子のためのブランドとして歩んでいます。(支援先：Peach heart)

語り部&体験ツアー

気仙地方の米粉で作る伝統和菓子「ゆべし」の生産・販売や長洞元気村への体験ツアーを受け入れ、語り部・昼食提供などを行っています。(支援先：長洞元気村 なてしこ会)

放課後スクールで児童支援

震災で離散し交流の場がない子どもたちが集える「放課後子ども広場」を運営。被災した珠算教師を雇用し学びの提供と同時に教室再開のきっかけを作ります。(支援先：チーム王冠)

地元食材の移動カフェ

雄勝町をはなれた地元出身者の集いなどに、旬のわかめや特産のほたてを提供しています。移動販売店舗の場所決定のための情報収集とPR活動中です。(支援先：行商カフェ 雄勝十五浜)

学び合いの場づくり

震災と原発事故により大きく揺らいだ旧来の価値観に替わる新しい生き方・暮らし方を、教える側と学ぶ側の垣根を越えて共に学び合う場をつくります。(支援先：蓮笑庵くらしの学校)

ワンコインのみんなのレストラン

1月10日、ワンコインで食事を楽しめるレストラン「キッチン停車場」をオープン。常連さんもできてきました。思いは「みんなの居場所づくり」です。(支援先：紫波中央駅前コミュニティー・プラザの会)

お母さんによる家庭料理の食堂

「いしのみ★キッチン」で名産のたらこの醤油漬など、メニューを開発中。また、津波で腐食した壁などを修繕し、食品衛生の環境を整えています。(支援先：ぐるぐる応援団)

情報誌創刊&編集者の育成

福島県内のクリエイター、ライターをメンバーに、原発事故後を生きる全ての人々の声と活動を紹介する雑誌創刊とライター育成に取り組んでいます。(支援先：のはら舎)

手づくりワークショップの開催

「モカフルー」は手づくり大好きな雑貨屋さん♪みなさんにウキウキ楽しい時間を過ごして欲しいとさまざまなジャンルのワークショップを開いています。(支援先：zakka market モカフルー)

セラピー支援&サロン運営

2012年12月、仙台市若林区にCOCOKARA SALONをオープン。地域のみなさまと健康をはくむサロンを目指し、セラピストとしての一歩を踏み出しました。(支援先：杜の都チーム ドルフィンドリーム)

休耕地&障がい者支援農業

休耕地を活用したサツマイモの栽培・収穫と干し芋への加工などの活動に取り組んだほか、NPO法人化や新規耕作地の確保など基盤整備を行いました。(支援先：交流ステーションみのり)

フェリシモの森基金

TOTAL

フェリシモの森基金スタート以来、集まった基金は累計で約3.8億円となり、国内外38カ所所で約2,077万本の植林が実現しています。

*「フェリシモの森活部」

「フェリシモの森基金」の活動をさらに広げ、お客さまとともに森を守り、育てるために「フェリシモの森活部」（専用ウェブサイト）ができました。

詳しい活動内容は、<http://feli.jp/s/mori/>（パソコンのみ）をご覧ください。

毎月一口100円の寄付による参加をいただき、集まった基金で、国内外での森づくりを進めています。

2012年度は、お客さまから 10,491,220円をお預かりし、国内外の森づくりに 34,148,796円を拠出しました。

第25回の長野県信濃町（黒姫・アファンの森）での9年目の森づくりとして、郷土樹種を主体に、ミスナラ、トチ、カツラなど1,300本を植樹しました。
（助成団体：C.W.ニコル・アファンの森財団）



ヤブ刈りの様子
©C.W.ニコル・アファンの森財団



地ごしらえの様子
©C.W.ニコル・アファンの森財団



植樹の様子
©C.W.ニコル・アファンの森財団

第37回目の森づくりの2年目として、神奈川県横須賀市の湘南国際村めぐりの森に、シイ、タブ、カシなど6,000本を植樹しました。
（協働参加型めぐりの森づくり推進会議）



植樹前の様子
©協働参加型めぐりの森づくり推進会議



植樹中の様子
©協働参加型めぐりの森づくり推進会議



植樹後の様子
©協働参加型めぐりの森づくり推進会議

第38回目の森づくりは、沖縄県宮古市に、水源涵養とさんご礁保全の森として、マンゴローブなど1,000本を植樹しました。
（助成団体：CCC自然・文化工場）



植樹の様子
©CCC自然・文化工場



植樹した苗木
©CCC自然・文化工場



植樹したマンゴローブの苗木
©CCC自然・文化工場

海外での森づくりとして、第11回のインド、西ベンガル州、ジャルカント州、オリッサ州に、アカシア系樹木やマンゴーなどの果樹木の植樹を進めています。（助成団体：タゴール協会）

毎月一口100円の寄付による参加をいただき、集まった基金で、日本の生活に宿る

伝統文化の保護と継承を支援しています。

2012年度は、お客さまから1,214,410円をお預かりし、**麓庵（ちいおり）**トラストの日本伝統生活を守る活動に837,090円を拠出しました。

徳島県三好市東祖谷（いや）にある築三百年の「麓庵（ちいおり）」は、1973年から約13年アレックス・カーさんが多くの人々の協力を得ながら修復を進めた古民家。

日本伝統生活文化基金は、「麓庵（ちいおり）」の茅葺（かやぶ）き屋根の修復を支援しました。



©ちいおりトラスト完成後の麓庵（ちいおり）。屋根が新しく吹き替えて、村の歩く道から全貌が見える。

日本伝統生活文化基金にご協力くださりありがとうございました。皆様のご支援により、築300年の古民家「麓庵（ちいおり）」の改修を無事に終えることができました。

振り返ってみると、私が徳島県の山奥にある「祖谷（いや）」と出会ったのは1971年でした。「三大秘境」の一つと言われる祖谷には平家落人の伝説が残り、険しい山の斜面に茅葺き屋根の民家が点在しています。全国的に言えることですが、祖谷でも古い農家がどんどん壊されており、麓庵のような家は貴重な存在です。古民家は「死んだ資料館」ではなく、「生きている住居」として改修する必要がある、と私は深く信じています。40年間ずっと麓庵の大改修を夢見てきましたが、修理には多額の金額が必要でもあり、なかなか実現には至りませんでした。

今回の改修で、そうした長年の夢がやっと叶いました。皆様も祖谷にお越しの際は、是非麓庵まで遊びにいらしてください。日本には危機的な状況に瀕した建物や地域がまだまだあります。今後は、そのような地域の再生活動に尽力していきたいと思っています。これからも引き続き、皆様からのご支援を頂けると幸いです。

／アレックス・カー

アレックス・カー/Alex Kerr -----

1952年アメリカ生まれ。64年に初来日し、横浜に2年間に在任後、帰国。エール大学で日本学、オックスフォード大学で中国学を専攻。71年にヒッチハイクで日本一週の旅を敢行中に茅葺（かやぶ）き民家に出会い、73年にその再生活動を始める。現在は主に京都とタイ・バンコクを拠点とし、日本と東アジアの美術館蒐集（しゅうしゅう）、文化および環境改善のコンサルタント、執筆、講演、通訳など多方面で活躍。94年『美しい日本の残像』で新潮学芸賞受賞。近著は現代日本の問題の根源に迫る『犬と鬼』。

フェリシモ地球村の基金

TOTAL

フェリシモ 地球村の基金スタート以来、集まった基金は累計で2.6億円を超え、世界54カ国202の活動を支援することができました。

*「みんなの地球村」

フェリシモ「地球村の基金」の活動をさらに広げ、世界のさまざまな人たちの繋がりを育むために「みんなの地球村」（専用ウェブサイト）ができました。詳しい活動内容は、<http://feli.jp/s/earth/>（パソコンのみ）をご覧ください。

スーダン 紛争避難民に対する緊急食料支援（助成団体：日本国際ボランティアセンター）

2011年6月から始まった政府軍と反政府勢力との戦闘が続くスーダン・南コルドファン州カドグリ市において、戦闘から避難してきた人々のうち、女性と子どものみの世帯、高齢者世帯などを中心に約2,500人分の食糧提供を支援しました。

公立小学校及び5歳児クラスへの給食・健康支援事業（助成団体：幼い難民を考える会）

カンボジアのプノンペン市内から強制的に移住させられた人々が多く住むスラムの一つであるトロピエンズバイ村の公立小学校において、590名の子どもたちへ朝給食を提供するとともに、教師、給食係、6年生を対象にした栄養ワークショップを実施し、子どもたちの栄養状態の改善を支援しました。また、保護者を対象にした教材縫製ワークショップも開催し、現金収入となる縫製の技術指導の実施を支援しました。

母子専門病院検査部の改善を通じた医療サービス向上支援プロジェクト（助成団体：AMDA社会開発機構）

インドとの国境地域に位置するネパールのランデヒ郡にある慈善病院、シッダールタ母子専門病院では年間約1,000人の新生児が入院治療を受けていますが、そのうち2割の患者が命を落としています。その原因のひとつが分娩時ならびに出生後の処理で感染する細菌感染症です。そのため、細菌感染症等で苦しむ新生児に対して適切で効果的な処置を行うために、新生児集中治療室の検査部資機材の提供ならびに検査に関する研修の実施を支援しました。

絵本・紙芝居出版事業（助成団体：ジャンティ国際ボランティア会）

カンボジアでは内戦時代の負の影響を受け、長期にわたって本の不足に悩まされています。特に子どもや若い世代向けのイラストのついた本は少なく、子どもたちが教科書以外で楽しめる読み物はほとんどないため、絵本出版ならびに紙芝居出版事業を支援しました。3,000冊の絵本と350部の紙芝居がカンボジアの子どもたちに贈ることができました。



©ジャンティ国際ボランティア会

路上生活女性の保護教育施設の建設（助成団体：メドゥサン・デュ・モンド ジャパン）

紛争とあいまって経済混乱と無秩序な都市計画が進み、多くの子どもたちが家族を離れ路上生活を強いられているコンゴ民主共和国の首都キンシャサにおいて、路上生活をする少女たちのために、女性保護センターを設立し、少女たちへの無料のケアサービス、健康に関する教育の実施する活動を支援しました。

児童労働を教育へ変える、コットン生産地のコミュニティ参加促進プロジェクト（助成団体：ACE）

土地なし農民や低カースト層など立場の弱い貧困家庭が多いインド南部にあるナガルドゥーティ村において、コットン栽培などの農作業や家事労働のため学校に通うことができない義務教育の就学年齢（6～14歳）の子ども（特に女の子）が、質の良い教育を受けられるように、子どもの就学を呼びかける啓発活動と見回り活動、ならびに学校へ一度も通ったことがない、または中途退学をしてしまった子どもたちを「ブリッジスクール」で受け入れ、給食や制服、教科書や学用品を支給し、基礎学力を身につけて公立学校へ編入できるよう橋渡しをする活動を支援しました。このプロジェクトにより175人が労働をやめて教育を受けられるようになりました。

毎月一口100円の寄付による参加をいただき、集まった基金で貧困からの自立、自然災害などからの救済、復興の応援など、世界各地で進められている活動を支援します。

2012年度は、お客さまから8,605,330円をお預かりし、次の21事業に総額10,203,350円を拠出しました。

スーダン 避難民への緊急物資支援（助成団体：日本国際ボランティアセンター）

2011年に内戦が再度勃発した南スーダン共和国ユニティ州バリアン郡において、内戦勃発直後に2～3万人程度の収容を想定して設けられた難民キャンプに現在では6万人ほどが避難しており、物資の配給が足りない状況に陥っていました。そのため、難民キャンプに到着しながら物資配給を受けることができない女性、子どもたちに衣料品などの支援物資をお贈りしました。

スーダン 難民によるキャンプでの生計向上への支援活動（助成団体：日本国際ボランティアセンター）

2011年に内戦が再度勃発したスーダン共和国南コルドファン州において、難民キャンプでの避難生活を余儀なくされている子どもたちの内、食事など必要な世話を受けることが困難な子どもたちを日中預かり給食を提供する「託児所」の運営を支援しました。

貧困に苦しむ子どもたちへの非公式教育および職業訓練

フィリピン共和国マニラ首都圏のスラム地区パゴニシラン、バヤタスにおいて、貧困家庭出身の青少年の教育支援を行うとともに、教育を修了した青少年が技術を身につけて、現金収入や就業の機会を得られるよう裁縫、コンピューターの職業訓練の実施を支援しました。

職業訓練参加者のお声

私は8人兄弟の長女で、両親は仕事がないため、幼い頃からゴミ山でゴミを拾って生活をしていました。学校に通うお金がなかったので奨学金を受け、高校を卒業した後すぐに結婚しました。夫の収入は多くありませんでしたが、私の実家にも協力してくれていましたし、このまま夫と子どもの面倒を見て人生を過ごしていくのだと思っていました。今回、職業訓練に参加して、一つの製品を作るときに必要な忍耐を学び、自信も身につきました。自分の興味、関心を実現される場を与えられたことに感謝します。いつか自分の兄弟や近隣の人にも就業機会を与えられるようなショップを持つことが私の夢です。

障がい児クラブにおけるおもちゃ図書館設置事業（助成団体：エファジャパン）

ベトナムのハイフォン市の3村の障がい児教室（バックソン村、タンフオン村、キエンティエツト村）、ならびにティエンラン町診療所、キエンティエツト村文化会館の計5箇所におもちゃ図書館を設置し、普段は家に閉じこもっていることの多い障がい児が集まり、家族以外の人と接したり、遊んだり、リハビリ活動を通じて地域社会との接点を生み出す活動を支援しました。

スラムの保育と地域の自立を支えるプロジェクト（助成団体：幼い難民を考える会）

カンボジアのプノンペンにあるアンドン村では、2005年にスラム住民が首都中心部から郊外へ強制移住させられた約260世帯3,000名あまりが生活しており、生活環境は過酷で、3畳ほどの掘立小屋に平均5人の家族が暮らしています。非衛生的な環境で十分な食事を摂取できない子どもたちの多くは栄養障害に陥っており、保護者の就労率も大変低い状況であることから、子どもたちへの1日3回の給食を通じた栄養状態の改善、保育を通じた保護者への就労支援活動を支援しました。

母子保健向上プロジェクト（助成団体：AMDA社会開発機構）

乳幼児と妊産婦の死亡率が高いホンジュラスの農村部に位置するエルパライス県トロヘス市において、母子に安全な出産環境を提供するためにトロヘス母子保健センターの改修および分娩待機ベッド、新生児用衣服などの資機材の導入を支援しました。

「防災学習ノート」による自立的な防災行動推進プロジェクト（助成団体：SEEDS Asia）

サイクロン・高波・地震・津波など、自然災害のリスクが高いミャンマーにおいて、防災知識・意識の啓もうを目的として、子どもから大人まで身近で使用する機会が多いノートに防災要素を加えた「防災学習ノート」を開発・配布し、日常生活の中での防災意識を持続させるとともに、家族などへの周囲に防災に関する意識を広めていく活動を支援しました。



© SEEDS Asia

保健センター水道衛生設備の改善事業（助成団体：メドゥサン・デュ・モンド ジャパン）

妊産婦・乳幼児の死亡率・疾病率が高いラオスの開発の遅れている南部のチャンパサック県スクマ郡・ムンラバモク郡において、劣悪な衛生状態にある保健センターに水道設備の整備を支援しました。

HIV/エイズ陽性者および子どもたちのサポート体制強化プロジェクト（助成団体：日本国際ボランティアセンター）

人口の11.4%に当たる約560万人がHIVに感染している南アフリカにおいて、HIV/エイズ陽性者とその家族がより健康な暮らしをおくれるよう、家庭訪問を通じた患者や子どものケアをする在宅介護ボランティアの育成、地域における子どもケアセンターの活動強化とボランティアの育成、ならびにボランティアによる予防啓発活動を支援しました。

子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト（助成団体：チャイルド・ファンド ジャパン）

1990年代後半より続いた武力闘争により、子どもたちの教育機会が大きく損なわれていたネパールのラメチャップ郡において、子どもたちの学習達成度向上を目的とした小学校の教室の建設、改修、校庭の整備などの活動を支援しました。

母子保健医療アクセスの向上プロジェクト（助成団体：シェア=国際保健協力市民の会）

乳児、妊産婦の死亡率が高い東ティモールのアイレウ県において、住民一人ひとりが必要時に適切な保険医療にアクセスできるよう、保健ボランティアノートを通じて、保健ボランティアが普段から地域住民の健康や生活状況を把握し、必要に応じて、乳幼児健診と妊産婦検診を主とした母子保健センターへ誘導する活動を支援しました。

シリア避難民への緊急支援事業（助成団体：難民を助ける会）

2011年に始まったシリア内戦により、70万人にのぼるシリア人が近隣諸国に避難しています。トルコ南東部ハタイ県等に暮らす避難民の内、難民キャンプに入ることができないシリア避難民および受け入れ家族300世帯に食料・生活必需品の配布を支援しました。

シリア難民への緊急支援事業（助成団体：JEN）

シリア内戦の避難民を受け入れているヨルダン北部の砂漠地帯に設置されたザーター難民キャンプ及び国境付近の難民受け入れポイントにおいて、避難しているシリア女性に4,500セットの女性用下着をお贈りしました。

少女ファウズィアちゃんの声

去年の11月に両親と一緒にザーターキャンプにきました。家を離れる時、不安と恐怖でみんなパニックになっていたのので、私たちは何も持たずにここに来ました。今回、衣類を受け取ってとても嬉しかったです。女性用の下着がありました。色も綺麗で気に入っているし、何より新品がとても嬉しいです。

フィリピン・ミンダナオ島南部大型台風災害緊急救済事業（助成団体：アジア日本相互交流センター・ICAN）

2012年12月フィリピン・ミンダナオ島南部に上陸した台風24号は死者・行方不明者は約2,000名、被災者数620万人以上に及びフィリピン史上最大級の被害となりました。この台風で特に大きな被害を受けたダバオ州カバンガ町では、多くの家屋が強風で飛ばされていたため、カバンガ町の51家族に対し、シェルターとしての屋根の資材一式を提供しました。

フィリピン台風24号被災者を対象とした緊急救援活/プロジェクト（助成団体：AMDA）

フィリピンに上陸した台風24号で被災したミンダナオ島コンボステラ・パレー州において、被災された方々への緊急支援として、医師の派遣・医薬品の運搬ならびに食糧救護物資をお贈りしました。

トリビュート21基金

TOTAL
トリビュート21基金は、1996年のスタート以来累計で1億円を超え、ユネスコ本部をはじめ119の団体に寄付しました。

「世界の子どもたちにしあわせを贈るプレート」として各界で活躍する著名人や一般公募によって選ばれたお客さまがデザインしたトリビュート21プレートや関連商品を基金付きで販売しています。

TRIBUTE 21

2012年度は、お客さまから1,334,400円をお預かりしました。
お預かりした基金は、次の2事業に総額3,167,676円を拠出しました。

拠出した基金は、ユネスコ本部を通じて発展途上国の子どもたちを対象にした教育プログラム DREAM CENTER (ドリームセンター) の活動に活用されます。



「DREAM CENTER (ドリームセンター)」について
ドリームセンターは、2003年にユネスコとフェリシモが設立した、発展途上国の子どもたちを対象にした芸術教育プログラムです。ダンス (Dance)、読み書き (Read)、表現・演劇 (Express)、ビジュアルアート (Art)、音楽 (Music) を通じて、知識にふれ、創造力を表現する能力を身につけることで、子どもたちがいきいきとした未来を描くための助けとなることをめざしています。

あしなが育英会に寄付し、東日本大震災発生以後、被災した子どもたちへの心のケア活動や津波遺児の心のケアのための施設「東北レインボーハウス」の建設を支援しています。

アルモンド基金

TOTAL
アルモンド基金は、2007年のスタート以来、累計で2,400万円を超え、ユネスコ本部をはじめ、10の団体の活動を支援することができました。

デザインで世界をしあわせに導く……フェリシモとユネスコ共催のオンラインコミュニティ「DESIGN21: ソーシャルデザインネットワーク」から生まれたチャリティーリングシリーズを基金付きで販売しています。



2012年度は、お客さまから314,922円をお預かりしました。
お預かりした基金は、次の10事業に総額270,566円を拠出しました。

難民を助ける会ならびにThe Halo Trustへ寄付し、地雷除去活動や地雷回避のための教育活動を支援しています。

メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンに寄付し、難病と闘う国内の子どもたちの夢の実現を支援しています。

ハンガー・フリー・ワールドに寄付し、西アフリカの国、ブルキナファソで、5歳以上の子どもたちの給食を提供する活動を支援しています。

全国盲導犬施設連合会に寄付し、視覚障害を持った方を安全に快適に誘導する盲導犬の育成を行う8カ所の公認施設を支援しています。

タゴール協会に寄付し、インドの西ベンガル州、オリッサ州、ジャルカント州の砂漠化した地域での住民参加の森づくりを支援しています。

骨髄移植推進財団に寄付し、より多くのドナー登録を募るための骨髄バンクの広報活動を支援しています。

ユネスコ本部へ寄付し、発展途上国の子どもたちを対象にした教育プログラムDREAM CENTER (ドリームセンター) の活動を支援しています。

WWFジャパンに寄付し、さんご礁の保全やジュゴンの保護をはじめとする、自然環境の保全と野生動物保護のための調査やキャンペーン活動を支援しています。

日本対がん協会に寄付し、ピンクリボン運動などのキャンペーン活動のほか、乳がん検診に携わる医師・技師への研修などを支援しています。

シェアに寄付し、HIV感染の予防や、偏見・差別を軽減するための活動やHIV陽性者やその家族への精神的・社会的サポートをする活動を支援しています。

haco. ピース・バイ・ピース コットン基金

TOTAL
haco.ピース・バイ・ピースコットン基金は、2009年のスタート以来累計で5,000万円を超え、農村の自立支援、子どもたちの教育支援に活用されています。

綿花栽培で衰弱した土地を救い、未来の子供たちに元気な大地を残すために始動したプロジェクトです。インド産オーガニックコットンから作られる製品に基金をつけて販売し、集まった基金をインドでオーガニックコットン栽培を通じた農村の自立支援、子どもたちの教育支援などの活動に寄付します。

2012年度は、お客さまから23,795,234円をお預かりしました。
お預かりした基金のうち、FORUM FOR INTEGRATED DEVELOPMENTに総額5,232,812円を拠出しました。

2010年からはじまったピース・バイ・ピース コットン基金の支援は3年目を迎え、これまでに6,117世帯以上の農家が有機栽培に移行し、持続的に収入を得ることができるようになりました。また、ピース・バイ・ピース コットン基金は、子どもたちへの教育支援として、就学支援と奨学金にも活用され、インドの農村部に住む791名 (男子348名、443名) の未就学児の子どもたちが学校に通うようになり、更に、253名の学生の高等教育への進学も支援しています。



*haco.ピース・バイ・ピース コットン基金の活用レポートはウェブサイトにてご案内しています。
ぜひ、ウェブサイトをご確認ください。
<http://feli.jp/s/psbp/>

フェリシモ子ども基金

TOTAL
NUSY ラブ&ピースシリーズを含むフェリシモ子ども基金は、2001年のスタート以来累計で6,900万円を超え、世界各地の子どもたちを支援しています。

はな*はな*みどり基金

TOTAL
はな*はな*みどり基金は、2008年のスタート以来累計で740万円を超え、世界の植林活動を支援しています。

フェリシモ アクティビティーズ

TOTAL
フェリシモアクティビティーズによる基金は、スタート以来累計で、3,000万円を超え、開発途上国の生産者の自立支援や子どもたちの支援に活用されています。

2001年に起きた米国同時多発テロ事件をきっかけに、子供たちにしあわせな未来を残そうとメッセージを発信して基金もできる「nusy ラブ&ピースメッセージTシャツ」を発売し、集まった基金を世界の子どもたちのための活動に寄付しています。



2012年度は、お客さまから2,060,100円をお預かりしました。
お預かりした基金のうち、9,640,500円をあしなが育英会に拠出しました。

あしなが育英会に寄付し、東日本大震災発生以後、被災した子どもたちへの心のケア活動や津波遺児の心のケアのための施設「東北レインボーハウス」の建設を支援しています。



「あなたが贈るお花が世界で植えられる植物とつながりますように」という願いをこめて、カタログ『しあわせの母の日』に掲載の商品をはじめ、一部、お花・植物を基金付きとして販売し、集まった基金で世界の植林活動を支援しています。

2012年度は、お客さまから1,978,422円をお預かりしました。
お預かりした基金のうち、2,776,186円をタゴール協会の「インドの森づくり」事業に、399,627円を東日本大震災の被災地に花や緑を贈る活動に拠出しました。

東日本大震災の被災地域に花の苗や種を贈り、花で日本を応援する活動として、2012年10月に石巻市上釜ふれあい広場を中心に、地域のみなさまやボランティアなど約70人が参加し、チューリップ約13,000球とツツジ苗40本を植えました。(協力団体: ジェン)



ツツジの植栽の様子 ©ジェン



チューリップの植栽の様子 ©ジェン



チューリップの様子 2013年4月4日 ©ジェン



チューリップの様子 2013年4月18日 ©ジェン

カタログ『みんなの地球村』に掲載のフェリシモ アクティビティーズの商品の一部を基金付きで販売しています。



2012年度は、お客さまから710,583円をお預かりしました。
お預かりした基金は、次の3事業に731,810円を拠出します。

ザ・チルドレン・オブ・セブファンデーションに寄付し、フィリピン・セブ島のストリートチルドレンとなった子どもたちの衣食住、教育、医療などの総合的な支援に活用されています。

ユネスコ世界寺小運動基金として、日本ユネスコ協会連盟へ寄付し、読み書きできない子どもや大人への識字教育を支援します。

「ベトナム子どもの家基金」として「ベトナム子どもの家」を支える会へ寄付し、ストリートチルドレンや親がいない子どもたちをサポートしています。

ベトナムの中部「フエ市」でストリートチルドレンや親のいない子どもたちを育てる「子どもの家」を運営して20年になります。この20年間で約200人の子どもたちを受け入れ、養育し、学校へ通わせ、自立させました。両親が死亡し親のいない子どもたち、両親が離婚し、行き場を失った子どもたちなど様々な理由で「親のいない」子どもたちです。2013年3月時点では、42人の子どもたちが「子どもの家」で生活しており、小学生2人、中学生19人、高校生7人、大学生7人、職業訓練4人、在宅支援9人。今年度は5人の子どもたちが高校へ、3人の子どもが大学へ入学しました。大学入学の一人は、フエ医科大学、一人はダナン経済大学法学部、一人は、フエ観光大学です。更に4人の子どもたちが大学を卒業しました。フエ医科大学(6年)を卒業し、更に大学に残り研究者の道に入りました。中学校の化学の先生、小学校の先生、看護婦さんになりました。子どもたちの食事は1日3食で180円程度です。皆様から頂いた支援金は、約1ヶ月間の子どもたちの食事代として活用させて頂きました。多くの子どもたちは、戦争の長かったベトナムの社会の影響、親の養育拒絶などの理由で路上生活などをせざるを得ませんでした。けて、子どもたち自身の理由で路上に放り出されたものではありません。両親が亡くなり、親戚も貧しい姉妹は養育する人がいなく、「子どもの家」へ入所しました。姉は、毎日勉強をし、ベトナム最難関の大学「フエ医科大学」に入学し、卒業。今年も妹もフエ医科大学に入学しました。こうして親のいない姉妹ですが、「今まで子どもの家や多くの日本人にお世話になり、今日の自分たちがある。これからは、ベトナム社会のために食いたい人たちのための医師になり、日本からの支援の恩返しをしたい」と言っています。みなさまからの尊いご支援は、ベトナムの貧しい子どもたちを育てるという形で、ベトナム社会に還元されています。日越友好の礎のひとつになればと思い、更に現地で頑張ろうと決意している今日この頃です。



子どもたち ©ベトナムの「子どもの家」を支える会



昼食の様子 ©ベトナムの「子どもの家」を支える会



昼食メニュー ©ベトナムの「子どもの家」を支える会

／ベトナムの「子どもの家」を支える会代表 小山 道夫

メリー
しあわせ基金

フェリシモが発行するお買い物ポイント“フェリシモメリー”でプレゼントを選ぶ代わりに、被災された方々を応援するプログラムです。集まったメリーの相当額は、東日本大震災で被災された方々が笑顔になれる、希望を感じられる活動を継続的に行うために活用されます。

2012年度は、お客さまから2,420,220円をお預かりし、以下の事業に総額802,287円を拠出しました。

子どもたちと絵本を作るワークショップ



メリーしあわせ基金で支援した被災地の子どもたちと一緒に作るミュージカル「明けない夜はないから」は、被災地の子どもたちだけではなく、そこに暮らす大人の人たちや私たちに勇気と元気をもらうプロジェクトになりました。今回そのミュージカルで私たちが被災地の子どもたちからもらった思いを絵本という形で日本中、世界中に伝えていくことを目的として、震災を経験した子どもたちとプロの絵本作家さんが一緒に作る絵本「明けない夜はないから」のための「絵画ワークショップ」（3回開催）を支援しました。

切り絵や水彩などの画材を使ったワークショップ



絵手紙や切り絵手紙など、年齢を問わず参加できる「手紙」を作る過程を仮設住宅で生活を送る方々に楽しんで頂きながら、自分の気持ちを文章や形に表現することで心のケアにつながる「切り絵や水彩などの画材を使ったワークショップ」を支援しました。

mama.f
スマイリー基金

TOTAL
mama.f スマイリー基金は、2003年のスタート以来累計で1,400万円を超え、世界10カ国で子どもたちを支援することができました。

子どもを持つプランナーmama.fの「世界中すべての子どもたちが健康で、楽しい毎日が過ごせるように」という思いから、基金付きで商品を販売しています。

2012年度は、お客さまから804,400円をお預かりしました。お預かりした基金のうち、次の3事業に総額900,000円を拠出しました。

20年以上続いた内戦により、子どもたちの半数が慢性的な栄養失調に苦しむカンボジアの子どもたちに「幼い難民を考える会」を通じて10円給食活動を支援します。

インドの子どもたちに「ACE（エース）」を通じて直接子どもたちを児童労働から保護、予防し、教育が受けられるようにする取り組みを行う「子どもにやさしい村プロジェクト」を支援します。

フィリピンのマニラ首都圏でのストリートチルドレンをはじめとする恵まれない青少年たちに「国境なき子供たち」を通じて自立支援施設「若者の家」における安定した衣食住と教育訓練を支援します。



インフィニット・
ホープ基金

『グラミン・フェリシモ』ブランドとともに誕生した基金で、グラミン・フェリシモの商品を基金付きで販売し、集まった基金でバングラデシュの社会インフラの改善活動を支援しています。

2012年度はお客さまから3,397,174円をお預かりしました。お預かりした基金のうち、2,260,272円を活用し、不衛生な水を飲料水に使用しているエリアへの浄水器付自転車の提供を支援しました。

浄水器付き自転車がシキボリ学校の子どもたちに贈られました。タンガイル県デルドゥワール郡にある3村（ルブン村、ガットラ村、アッラー村）の3歳から10歳までの子どもたちが通うシキボリ学校（生徒数 約200人）に浄水器付き自転車が贈られました。子どもたちの両親の多くは、土地をもたない農民として、不安定な日雇い労働収入で生計を営んでいます。また、この地域の井戸水には、鉄分が多く含まれているため、子ども達は安全な水を飲むことができない状況でした。



浄水器自転車についての説明。付近の住民も参加し、賑やかに。©Desh Bidesh Enterprise



浄水器付き自転車を漕いでいる少女。普段は自転車に乗る機会がない為、恥ずかしがりながらも楽しそうに漕いでいます。©Desh Bidesh Enterprise



順番がようやく来て、一気に水を飲んでいる少年。「おいしい」と一言。©Desh Bidesh Enterprise



水を飲む少女たち。©Desh Bidesh Enterprise

学校の校庭に教師、生徒、保護者を集め、浄水器付き自転車を披露。自転車のメカニズムについて説明を行いました。その後、子どもたちと教師のみなさんと一緒に学校のすぐそばにある池の水を選び、実際に子ども達に自転車を漕いでもらいました。池の水が飲料水に変わると子どもから大人までがとて驚いていた様子でした。浄水自転車水が普段飲用している井戸水と変わらない味に、「次、私が飲みたい！」と子どもたちが殺到しました。普段、自転車に乗る機会さえない子ども達、特に、女の子は恥ずかしそうながらも楽しそうに自転車を漕いでいました。「おいしい、おいしい」という声と子ども達の驚きの顔、きらきらとした目がとても印象的でした。（協力団体：Desh Bidesh Enterprise, UBINIG）

ラブ&サンクス基金

「チョコレートの輪が世界中に広がって、誰かのしあわせの種になりますように」という願いを込めて、カタログ「幸福のチョコレート」に掲載のすべてのチョコレートを基金付き商品として販売しています。

2012年度は、お客さまから2,591,593円をお預かりしました。お預かりした基金のうち、次の4事業に総額2,160,596円を拠出しました。

ザンビアの子どもたちの栄養改善につながる活動に寄付しました。（AMD A社会開発機構）
ザンビアにはエイズや結核の患者さんが多くいます。HIVの患者さんの死亡原因の多くが結核によるものだそうです。結核の治療のむずかしさは治療完了までに6～12カ月もかかること。その間に薬を飲まなくなってしまうと、一時よくなったように見えても結局再発してしまい、薬も効かなくなります。そのため、小児結核の子どもたちの中でも特にリスクの高い栄養不良患児に、定期的にHEPS（大豆を主原料とした栄養補助食品）を供給し、結核改善のための栄養教育、お母さんのためのお料理教室を定期的に開催できるよう支援をしました。

カカオの産地であるガーナでの児童労働をなくす活動に寄付しました。（ACE（エース））
ガーナのカカオ生産地域で子どもを危険な児童労働から守り、すべての子どもが質の良い教育を受けられるようにする「スマイル・ガーナ プロジェクト」を支援しました。プロジェクトでは、住民が自らの力で児童労働を未然に防ぎ、子どもの教育や生活環境など、村を継続的に改善していく取り組みが進められています。



子ども保護委員会の会合の様子 ©ACE



学用品の支援を受ける子どもたち ©ACE



農業技術指導の様子 ©ACE

ガーナで人と地域に優しいカカオ生産のためにカカオの苗木を植樹する活動に寄付しました。（チョコレポ）
老木が多くカカオの収穫量が少ない地域にカカオの苗木を植える活動を支援しました。今回の支援で約3,000本の苗木を植樹することができました。ガーナでは、森を壊さずに豊かな生態系の中でカカオを育てる農法を広げる取り組みが進められています。

岩手県、宮城県の学童保育に通う子どもたちにチョコレートを寄贈しました。
東日本大震災への支援として、クリスマスとバレンタインデーに宮城県、岩手県の48か所の学童施設にチョコレートを寄贈しました。（協力団体：セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）

フェリシモ
わんにゃん基金

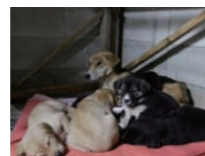
TOTAL
わんにゃん基金スタート以来、集まった基金は累計で2,700万円を超え、動物たちの保護と飼い主探しを支援することができました。

毎月一口100円の寄付による参加をいただき、集まった基金で、動物たちの保護と飼い主探しを支援しています。

2012年度は、お客さまから21,367,020円をお預かりし、国内の5つの動物保護団体に総額22,204,010円を拠出しました。

国内の様々な団体での動物の里親探しの活動、一時的に保護している犬や猫のフード代や医療費、野良猫の過剰繁殖の防止活動、災害時の動物保護活動などの支援に使われます。

大変沢山の方からのご支援、誠にありがとうございます。今回の多頭レスキューは飼主さんからの費用のお支払いは見込めないため、皆様から頂いたご寄付を使わせていただきたいと思います。今回のレスキューは全て不妊手術をしなかったために発生したケースばかりですので、今後ますます不妊手術の重要性を広めていきたいと思っています。今後ともどうぞ、よろしく願い申し上げます。／アニマルレフュージ関西



©アニマルレフュージ関西
母犬と子犬6匹レスキュー（保護後、母犬が子育てをしている様子）



©アニマルレフュージ関西
母犬と子犬7匹レスキュー（警戒心の強い母犬の捕獲途中の様子）



©アニマルレフュージ関西
猫12匹レスキュー（保護後、一匹ずつ健康チェックをしている様子）

フェリシモの猫基金

「猫と人とがともにしあわせに暮らせる社会になりますように」という思いをこめて、フェリシモ猫部から生まれた商品の一部を基金付きで販売し、集まった基金で猫をはじめとして、捨てられた小動物の保護や里親活動を支援しています。

2012年度は、お客さまから9,496,949円をお預かりし、国内の32の動物保護団体に総額8,047,812円を拠出しました。

沖縄サンゴ基金

「沖縄の美しい珊瑚礁を未来に残したい」という思いから、カタログ『エコラ』掲載の商品の一部を基金付きとして販売し、サンゴ礁の保全活動を支援しています。

2012年度は、お客さまから1,566,381円をお預かりしました。お預かりした基金のうち、937,155円を美ら海振興会に拠出しました。

3月5日「サンゴの日」に、サンゴ植付けイベントを行いました。イベントには約80名のダイバーが参加し、サンゴ200株が植えつけられました。サンゴ植付け当日は、サンゴの植付けに熟知した美ら海振興会の会員が植付け手順を参加者にレクチャーし、水中でも植付けのサポートを行いました。多くの方にサンゴの植付け活動を知って頂く、良い機会につながりました。



サンゴの植付けの様子 ©美ら海振興会

その他 基金付き商品の 販売等による基金

さまざまな商品のコンセプトに沿った活動を応援する基金付き商品を製作販売しています。集まった基金はそれぞれの活動に寄付します。

2012年度は、お客さまから3,012,934円をお預かりし、次の事業に2,169,288円を拠出しました。

東北 花咲かお母さんプロジェクト基金から396,580円を拠出し、2カ所の被災地で花植えを実施しました。

スマイル・アース基金から日本ユネスコ協会連盟へ374,912円を拠出しました。拠出した基金は、世界遺産を保護する活動に活用されます。

未来のたからもの サンゴの森基金からアクアプラネットへ246,800円を拠出しました。拠出した基金は、サンゴの再生活動に活用されます。

赤星憲広の輪を広げる基金からRing of Red ~赤星憲広の輪を広げる基金へ173,610円を拠出しました。拠出した基金は、少年野球普及活動への支援に活用されます。

その他の基金付き商品の販売により集まった基金977,386円については、以下の24の団体、2つの活動へ拠出しました。

ドングリの会	日本対がん協会（ほほえみ基金）	タラヤナ財団
AMD A社会開発機構	あしなが育英会	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン
アムダ	カンボジア地雷撤去キャンペーン	ユネスコ本部
ハンガー・フリー・ワールド	骨髄移植推進財団	シェア=国際保健協力市民の会
難民を助ける会	日本ユネスコ協会連盟	東日本大震災支援（学童への絵本寄贈活動）
日本国際ボランティアセンター	国境なき医師団日本	東日本大震災支援（アートワークショップ活動）
タゴール協会	涼山州農村教育協会	
世界自然保護基金ジャパン	全国盲導犬施設連合会	
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	介護者サポートネットワークセンター・アラジン	
ドイツ国際平和村	日本救済衣料センター	

毎月1回、テーマにふさわしいゲストを神戸にお招きしてレクチャーやワークショップを開催する神戸学校は、集まった参加料の全額を寄付しています。

2012年度は、お客さまから778,038円をお預かりしました。お預かりした基金のうち、1,469,938円をあしなが育英会神戸レイナーハウスに拠出しました。

2012年度、神戸学校は全12回開催しました。

- 2012年度ゲスト
- ・ 行定 勲さん（映画監督）
 - ・ フレデリック クレスタン＝ピエさん（「メゾン・サージュ」オーナー）
 - ・ Candle JUNE(キャンドル ジュン)さん（キャンドルアーティスト）
 - ・ 赤星 憲広さん（元阪神タイガース選手・現野球解説者）
 - ・ 織作 峰子さん（写真家）
 - ・ 新田 新一郎さん（アトリエ自遊家校(じゆうがっこう)主宰）
 - ・ 大八木 淳史さん（元ラグビー日本代表・現芦屋学園中学校・高等学校校長）
 - ・ 幅 允孝さん（BACH(バツハ)代表・ブックディレクター）
 - ・ 山崎 亮さん（コミュニティデザイナー）
 - ・ 高戸 ベラさん（顔(表情)研究家・姿勢研究家）
 - ・ 平松 愛理さん（シンガーソングライター）
 - ・ マイク・モラスキーさん（一橋大学社会学部研究科教授・日本文化研究者）

メリーで社会貢献

TOTAL

メリーで社会貢献は、2002年のスタート以来累計で1.4億円を超え、それぞれの活動を支援することができました。

* メリーで社会貢献は、フェリシモコレクションのお買い物で贈りする「フェリシモメリー(mr)」にてお引き換えいただくことができます。

* メリーで社会貢献は、ウェブサイトにてお申し込みください。なお、最新情報は随時ウェブサイトにてご確認ください。
<http://www.felissimo.co.jp/merry/>

フェリシモ ハッピートイズ プロジェクト

TOTAL

フェリシモハッピートイズプロジェクトでは、1997年のスタート以来、39,000個を超えるハッピートイズが誕生し、日本を含む37カ国の子どもたちへ寄贈しています。

フェリシモが発行するお買い物ポイント“フェリシモメリー”でプレゼントを選ぶ代わりに、社会性ある活動に寄付するプログラムです。集まったメリーの相当額をそれぞれの活動に寄付しています。



2012年度は、お客さまから9,671,010円をお預かりし、次の事業に総額9,426,753円を拠出しました。

「盲導犬育成支援」では、全国盲導犬施設連合会を通じて、全国の8カ所の盲導犬育成施設に寄付しました。それぞれの施設で盲導犬の育成や活動の啓蒙、また、引退した盲導犬たちの支援に活用されます。

「HIV（ヒト免疫不全ウイルス）/AIDS（エイズ）対策活動支援」では、国境なき医師団日本、日本国際ボランティアセンターに寄付しました。開発途上国の人々へのエイズの治療の提供、南米でのエイズ予防のための教育プログラム、南アフリカのエイズ感染者への生活支援に活用されます。

「紛争地域の子どもたちへの医療活動支援」では、ドイツ国際平和村に寄付しました。紛争地域など海外から受け入れた子どもたちを治療したり、現地での医療支援を行いました。

「国内の難病のこどもの夢をかなえる活動支援」では、メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンに寄付しました。手づくりで、ひとりひとり違う子どもたちの夢をかなえる活動に活用されます。

「ブルキナファソの子どもたちへの栄養改善事業支援」では、ハンガー・フリー・ワールドに寄付しました。西アフリカの国、ブルキナファソの乳幼児妊産婦栄養改善事業に活用されます。

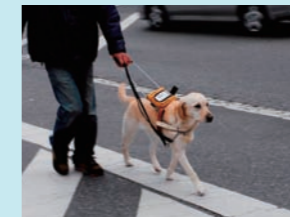
「動物たちの保護と飼育支援」では、国内の18の団体にに対して寄付しました。無責任な飼育に捨てられ、保健所などで処分されそうになる動物たちを保護し、新たな飼育主を探す活動に活用されます。

「地雷廃絶活動支援」では、難民を助ける会に寄付しました。地雷回避教育ならびに地雷被害者への自立支援活動に活用されます。また、基金の一部は、イギリスの地雷除去活動専門NGO The Halo Trustを通じて、地雷除去活動に活用されます。

「国内医療支援」では、骨髄移植推進財団、日本さい帯血バンクネットワークに寄付しました。白血病などの血液難病に苦しむ患者を救うため、その活動を広く社会に普及する事業に活用されます。

「自然環境の保全と野生動物の保護活動支援」では、WWF ジャパンに寄付しました。森や海などの生物多様性の保全、木材や魚介類など、自然資源の利用を持続可能なものにする活動、地球温暖化を防ぐ活動に活用されます。

「難民を助ける会 地雷回避教育の様子」



訓練を受ける盲導犬 ©全国盲導犬施設連合会



ルワンダの子供たち ©ドイツ国際平和村



難民を助ける会 地雷回避教育の様子

全国のお客さまに思い出の布や毛糸を使って毎年新しいテーマとともに発表されるキャラクターぬいぐるみ“ハッピートイズ”を手づくりしていただくプロジェクト。誕生したハッピートイズは笑顔の親善大使として国内外の子どもたちに寄贈しています。

2012年度は、計3,880個のハッピートイズを国内の子どもたちに寄贈しました。（2012年3月1日～2013年2月28日現在）

<寄贈先>

海外の子どもたちへ
インドネシア (Co.to.hana ウレレ小学校)
バングラデシュ (シラジゴンジ県)
カンボジア (JHP・学校をつくる会)



国内の子どもたちへ
アイリス保育園 / あざひ保育園 / さくら保育園 / しらかば保育園 / たかつき保育園 / ファミリーキッズ / ベビーハウスわたなべ / むつみ保育所 / 愛宕保育園 / 遠野保育所 / 夏井保育園 / 株式会社アンフィニ ひなた保育園 / 金石市社会福祉協議会 / 金石市社協生活ご安心センター / 鎌田こどもの家 / 菊田保育所 / 玉露保育所 / 錦保育所 / 古湊保育所 / 御殿保育所 / 好間保育所 / 高久保育園 / 三阪保育所 / 三和保育所 / 子育て支援チャイルドハウス / 鹿島保育所 / 小島保育園 / 常盤第一保育園 / 植田保育園 / 深川キリスト教会 / 西郷保育園 / 船尾保育園 / 大船渡仮設住宅 / 中村報徳保育園 / 田人保育所 / 渡辺保育所

* フェリシモハッピートイズプロジェクトの情報はウェブサイトにてご案内しています。最新情報はウェブサイトをご確認ください。
<http://www.felissimo.co.jp/toys/>

フェリシモ 基金活動について

本報告書に記載しています活動は、
お客さま、お取引先さま、株主のみなさま、従業員、現地で活動を行う団体、個人など活動に関わるすべての人々によって支えられています。
本当にありがとうございます。
ひとりひとりの力は小さくても、それぞれの思いを重ねることで、
たくさんの夢を実現しています。
これからも、みなさまの思いを生かした活動を展開していきたいと考えています。
なおフェリシモでは、おひとりおひとりのお気持ちを
「全額、直接的な支援活動に生かす」を原則とし、報告書発行などの
広報活動や基金事務局の運営費用等はフェリシモが負担しています。
今後ともどうぞよろしくお願いたします。

ご意見・ご提案について

フェリシモの基金活動についてのご意見、ご提案をお寄せください。

<http://www.felissimo.co.jp/otayori/>

2012年度 基金拠出先一覧

すべての基金の拠出先です。

2012年度は、国内外の101団体の活動を支援しました。

一般社団法人IDTAセラピスト協会
特定非営利活動法人アクアブラネット
あしなが育英会
認定NPO法人アジア日本相互交流センター
アニマルライフサポート福島
アニマルレスキューシステム基金
特定非営利活動法人アニマルレフュージ関西
特定非営利活動法人アムダ
特定非営利活動法人AMD A社会開発機構
一般社団法人あゆみ
特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク
特定非営利活動法人犬と猫のためのライフポート
特定非営利活動法人犬猫みなしご救援隊
うつくしま ふくしま 復興プロジェクト
認定NPO法人ACE
特定非営利活動法人エファジャパン
認定NPO法人幼い難民を考える会
特定非営利活動法人介護者サポートネットワークセンター・アラジ
仮設住宅支援団体 EARTH MIYAKO
公益財団法人神奈川県動物愛護協会
一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン
特定非営利活動法人北九州ノアハウス
特定非営利活動法人キャットネットかまくら
行商カフェ 雄勝十五浜
協働参加型めぐりの森づくり推進会議
緊急災害時動物支援ネットワーク熊本

釧路アニマルレスキュー RedHeart
一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団
ぐるぐる応援団
交流ステーションみのり
特定非営利活動法人国境なき医師団日本
認定NPO法人国境なき子どもたち
公益財団法人骨髄移植推進財団
特定非営利活動法人相模どうぶつ愛護の会
ザ チルドレン オフ セブ ファウンデーション
zakka market モカフルー
さんざカフェ
CCC自然・文化創造会議/工場
特定非営利活動法人SEEDS Asia
認定NPO法人シェア＝国際保健協力市民の会
JR南小泉仮設住宅
特定非営利活動法人ジェン
公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
湘南ねこの会
一般社団法人紫波中央駅前コミュニティー・プラザの会
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
公益財団法人世界自然保護基金ジャパン
認定NPO法人全国盲導犬施設連合会
タゴール協会
タラヤナ財団
特定非営利活動法人麓庵(ちいおり)トラスト
地域猫の会P.A.W.S.

一般社団法人チーム王冠
ち-むぼんぼん
ちばわん
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
特定非営利活動法人美ら海振興会
一般社団法人チョコレボ・インターナショナル
ちよだニャンとなる会
株式会社ティーズネットワーク
ドイツ国際平和村
動物いのちの会いわて
動物ノート
どうぶつ福祉の会AWS
特定非営利活動法人トータル・サポート
特定非営利活動法人ドリームキャット
特定非営利活動法人ドングリの会
長洞元気村 なでしこ会
認定NPO法人難民を助ける会
一般社団法人西脇動物の命を守る会
認定NPO法人日本アニマルトラスト
特定非営利活動法人日本救援衣料センター
特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター
日本さい帯血バンクネットワーク
公益財団法人日本対がん協会(ほほえみ基金)
NPO法人日本動物生命尊重の会
公益社団法人日本動物福祉協会 CCQロ
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

特定非営利活動法人日本臨床美術協会
一般社団法人にゃんだーガード
任意団体 peach heart
ねこ☆にゃらーず
のはら舎
PAK保健所の犬・猫を救う会
人と犬猫との共生を考える ハッピーテール
特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド
150匹犬猫ボランティア
Forum for Integrated Development
ベトナムの「子どもの家」を支える会
Perro Dogs Home
特定非営利活動法人保健所の成犬・猫の譲渡を推進する会
特定非営利活動法人HOKKA IDOLしっぽの会
ママサポーターズ
南相馬にゃんこはうす
一般財団法人メイク・ア・ウィッシュ オフ ジャパン
認定NPO法人メドゥッサン・デュ・モンド ジャポ
ユネスコ本部
一般社団法人 ゆめまるHAPPY隊
涼山州農村教育協会
Ring of Red ~赤星憲広の輪を広げる基金~
蓮実庵くらしの学校

* 報告書本文中では、法人格を省略して紹介させていただきました。
* 団体名称は、基金拠出時のものです。

フェリシモ基金活動ページ

本報告書は、2013年5月現在の情報をもとに作成しています。本報告書は、ウェブサイト上でPDFデータでもご覧いただけます。

<http://www.felissimo.co.jp/kikin/>

2012年度
フェリシモ基金活動報告書

発行元：フェリシモ基金事務局
株式会社フェリシモ内
〒650-0035 神戸市中央区浪花町59番地
TEL. 078-325-5753 (平日9:30~17:00)
FAX. 0120-055-827
発行：2013年5月

ともにしあわせになるしあわせ

